

FireRACK 800 インストールガイド



アマムレット株式会社

目次	
1. はじめに	3
1.1 本書に関する注意事項	3
1.2 安全にお使いいただくために	3
1.3 サポートおよび保証について	4
2. 製品内容	5
2.1 内容物	5
2.2 本製品の特徴	5
3. 互換情報	6
3.1 対応機種	6
3.2 対応 OS	6
3.3 対応ハードディスク	6
4. ハードウェアセットアップ	7
4.1 ハードディスクドライブの取り付け	8
4.1.1 HDD ケースを引き出す	8
4.1.2 ハードディスクドライブ (HDD) の取り付け	8
5. FireRACK 800 を使用する	11
5.1 Windows Me	12
5.1.1 パーティションの設定	12
5.1.2 ドライブのフォーマットとマウント	19
5.1.3 ドライブの取り外し	19
5.2 Windows2000/XP	20
5.2.1 ディスクへの署名	20
5.2.2 パーティションの設定	21
5.2.3 ドライブのフォーマットとマウント	23
5.2.4 ドライブの取り外し	23
5.3 Mac OS 9.x	24
5.3.1 ドライブソフトウェア	24
5.3.2 パーティションの設定	24
5.3.3 ドライブのフォーマットとマウント	26
5.3.4 ドライブの取り外し	26
5.4 Mac OS X	27
5.4.1 パーティションの設定	27
5.4.2 ドライブのフォーマットとマウント	28
5.4.3 ドライブの取り外し	29
6 付録	30
6.1 Windows ファイルシステム	30
6.1.1 ファイルシステムの種類	30
6.1.2 パーティションのルール	30
6.2 Mac OS 9.x ファイルシステム	31
6.2.1 ファイルシステムの種類	31
6.2.2 パーティションのルール	31
6.3 Mac OS X ファイルシステム	31
6.3.1 ファイルシステムの種類	31
6.3.2 パーティションのルール	31
6.4 仕様	32

1. はじめに

この度は、FireRACK 800（以下、「本製品」と表記します）をご購入いただき、誠にありがとうございます。製品を正しくお使いいただくため、使用前に必ず本書をお読みください。また、取扱説明書はいつもご参照いただけるよう、大切に保管してください。

1.1 本書に関する注意事項

本取扱説明書は、製品の都合により、予告無く変更することがございます。また、本書に記載される会社名ならびに商品名は、各社の登録商標となっています。

1.2 安全にお使いいただくために

本書では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、以下の絵表示で注意を呼びかけています。その表示と意味は次のようになっています。

< 警告！ >

誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

< 注意！ >

誤った取扱をすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

< 禁止！ >

この表記は、禁止の行為であることを示しています。

< 表記 >

この表記は、行為を規制したり、指示する内容を示しています。「表記」の部分に、具体的な指示内容が示されています。

< 注意！ >

< 電源プラグを抜いてください！ >

次のような異常の場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。そして、サポートセンターか、販売元にご連絡下さい。そのまま使用すると、火災・感電のおそれがあります。

1) 機器が発熱、異臭、発煙、異常な音などが認められた時

2) 機器内部に液体や金属が入った時

3) 機器を落としたり、破損した時

< 電源プラグを抜いてください！ >

機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。移動時にコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

電源プラグを抜くときは、必ず電源プラグを持って抜いてください。コードを引っ張るとコードが傷み、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

< 禁止！ >

ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！ >

機器の上に重い物を置いたり、乗ったりしないでください。バランスが崩れて落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。

< 禁止！ >

機器の上に水などの入った容器または金属物を置かないで下さい。こぼれたり、中に入った場

合、火災・感電の原因となることがあります。

< 禁止！ >

湿気や埃の多い場所、油煙や湯気があたるような場所での使用はさけてください。火災・感電の原因となることがあります。

1.3 サポートおよび保証について

- サポート内容
アミュレット株式会社は、本製品のご購入日から1年間、通常の使用のもとで、材質および製造上の物理的不具合がないことを保証します。万一、この期間内に製品に不具合が発見された場合、サポートセンターに連絡して下さい。連絡する際には、必ず保証書をご準備下さい。
- お問い合わせ窓口
製品に関するトラブルが発生した場合には「CitiDISKサポートフォーム」からお問い合わせすることができます。サポートには情報の収集が必要不可欠ですので、できるだけトラブルの具体的な内容を記載して下さい。後ほど、弊社のサポート担当よりご連絡をさせていただきます。

URL : <http://www.amulet.co.jp/CitiDISK/support.html>

動作しないという場合でも、事前の連絡も無く送付された場合には有償修理扱いとなる場合がございますのでご注意ください。

連絡先

アミュレット株式会社 サポートセンター

TEL 03-5295-8418

FAX 03-5295-8424

Email support@amulet.co.jp

< 営業時間 >

平日（月曜日を除く） 12:00～18:00

土曜日 11:00～19:00

2. 製品内容

2.1 内容物

- FireRACK 800 ハードディスクケース
- リムーバブルカートリッジ
- ハードディスク取付用ネジセット
- 専用鍵 2本 (内予備 1本)
- AC ケーブル
- FireRACK 800 インストールガイド(本書)
- ドライブ CD-ROM
- 保証書

2.2 本製品の特徴

本製品は、3.5 インチ IDE ハードディスクドライブ用の FireWire 800 / USB 2.0 対応リムーバブル式ハードディスクケースです。

- 超高速インターフェース、FireWire 800 (IEEE1394b)、USB2.0 に対応。
- 通常の IDE ハードディスクの増設が可能ですので安価で大容量ストレージがご利用いただけます。
- リムーバブルカートリッジを使用して簡単にハードディスクの交換が可能。
- 複数のハードディスクを手早く交換して作業効率が大幅アップ。
- USB (1.1 または 2.0) と FireWire 800 の 2 つのインターフェースを 1 つのケースで利用することができます。
- ハードディスクをアップグレードした場合、本製品に余ったディスクを入れて使うことができ経済的に外付けストレージを作成できます。
- Windows、Mac OS に対応しています。

3. 互換情報

3.1 対応機種

- USB (1.1 または 2.0) インターフェース・ポートもしくは FireWire 800/IEEE-1394b インターフェース・ポートを搭載した PC/AT 互換機
- USB (1.1 または 2.0) インターフェース・ポートもしくは FireWire 800/IEEE-1394 インターフェース・ポートを搭載した Apple Macintosh シリーズ

< FireWire 400 ポートとの接続について >

FireWire 400/IEEE1394a とはコネクタの形状が異なります。 FireWire 400 ポートと本製品を接続するためには、別途変換コネクタが必要となります。

< USB ポートと FireWire ポートの同時使用について >

USB ポートと FireWire ポートを同時に使用することはできません。

3.2 対応 OS

- Windows Me
- Windows 2000/XP
- Mac OS 9.x
- Mac OS 10.x

< サービスパック・バージョン・パッチ >

OS のサービスパック・バージョン・パッチの状況等によって、完全に動作しない場合もあります。

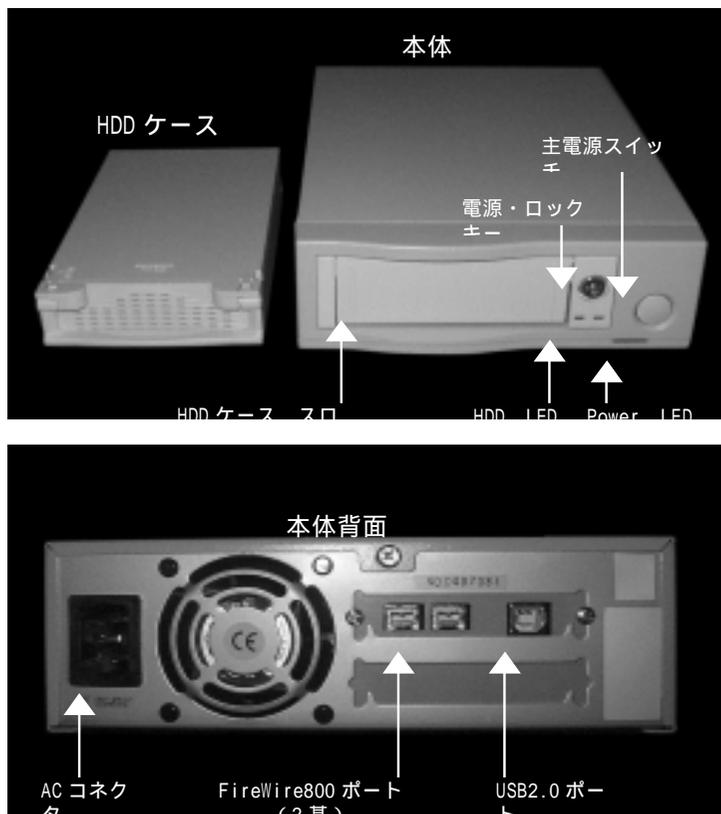
3.3 対応ハードディスク

- PIO/DMA/UDMA 対応の IDE 3.5 インチハードディスクドライブ。

4. ハードウェアセットアップ

- < 注意！ >
- < 電源プラグを抜いてください！ >
- 作業を行う間は、電源プラグを抜いた状態で行ってください。
- < 静電気に注意してください！ >
- 作業を行う前に金属に触れるなど、人体に蓄積されている静電気を放電した後に行ってください。静電気により回路破損など起こる恐れがあります。
- < 取り扱いに注意してください！ >
- 作業は細心の注意を払って行ってください。無理な力を加えたり、誤った方向に取り付けたりすると、容易に破損する恐れがあります。

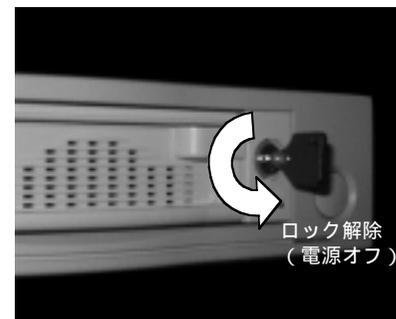
FireRACK 800 は、ハードディスクドライブ(HDD)を収める「HDD ケース」と、電源・FireWire800 / USB2.0 接続端子を持つ「本体」で構成されています。



4.1 ハードディスクドライブの取り付け

4.1.1 HDD ケースを引き出す

HDD ケースのハンドルを持って本体スロットより HDD ケースを引き出します。HDD ケースを本体から取り外すためには、付属の専用鍵を使って本体前面の「電源・ロックキー」を回し、HDD ケースのロックを解除しなければなりません。ロックと電源は連動しており、ロックが解除されるとともに電源はオフになります。電源が入ったままの状態では、HDD ケースを取り出すことはできません。



(図 4.1.1-a)



(図 4.1.1-b)

4.1.2 ハードディスクドライブ(HDD)の取り付け

- 1) 本体より引き出した、HDD ケースの上カバーを取りはずします。ケース前面の「OPEN」と書かれた側にある爪をはずして、上カバーを後方にスライドさせます。



(図 4.1.2-1-a)



(図 4.1.2-1-b)

- 2) HDDのジャンパーピンは、Primaryになるようにあらかじめ設定しておきます。HDDにIDEケーブルと電源ケーブルをそれぞれのコネクタの向きに注意して差し込み、HDDをHDDケースの中に挿入します。断線の恐れがありますので、挿入の際にはケーブルに注意し、無理に捻ったり折ったりしないように行ってください。



(図 4.1.2-2-a)



(図 4.1.2-2-b)

- 3) ご使用のHDDのネジ位置にあわせてネジでHDDを固定します。(側面2ヶ所ずつ、計4ヶ所)



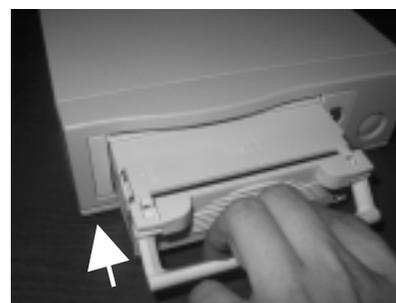
(図 4.1.2-3)

- 4) 上カバーをHDDケースの後方より前方にスライドさせて戻します。「OPEN」と書かれた爪がカチッとはまることを確認してください。

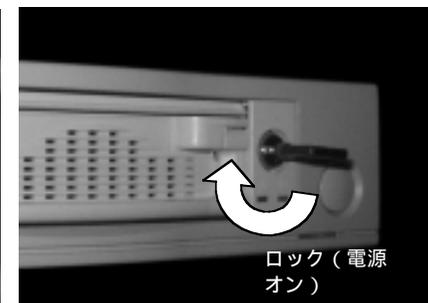


(図 4.1.2-4)

- 5) 本体スロットにHDDケースを挿入します。奥までしっかりと挿入されたのを確認したうえで、付属の専用鍵で電源・ロッキーを回し、HDDケースをロックします。



(図 4.1.2-5-a)



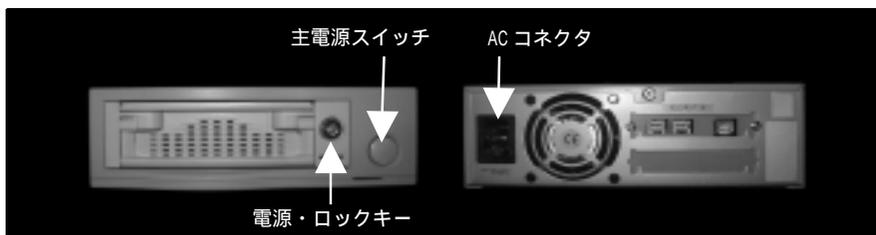
(図 4.1.2-5-b)

以上で、ハードディスクドライブの取り付けは終了です。

5. FireRACK 800 を使用する

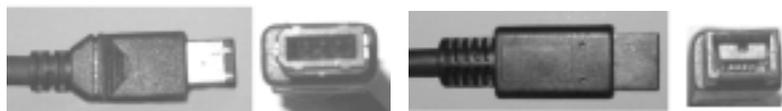
本製品の前面には、主電源スイッチ、およびHDD ケースのロックと電源スイッチを兼ねた、電源・ロックキーが付いています。電源をオンにするためには、主電源スイッチがオンになっている状態で、電源・ロックキーを回し、HDD ケースをロックすることが必要です。

- ◆ 本製品はバスパワーでは動作しません。必ず付属の AC ケーブルを AC コネクタに接続の上、コンセントから電源を供給してください。
- ◆ HDD ケースを取り外す場合は、コンピュータに接続していない状態で、電源・ロックキーをオフ側にセットし、HDD ケースのロックをはずしてから行います。(HDD ケースを取り出すときには電源がオフになります)
- ◆ 電源・ロックキーは付属の専用鍵でオン(ロック)、オフ(アンロック)の切り替えをします。専用キーは紛失しないようご注意ください。



本製品を使用する前に、ご使用のコンピュータで、USB もしくは FireWire の外部ハードディスクが使用できる状態になっていなければなりません。各 OS 付属のヘルプ等を参考に設定を先に行ってください。また、本製品をコンピュータへ接続したり取り外したりする際には、必ず各 OS 指定のやり方で行ってください。誤った接続や取り外しを行いますと、最悪の場合、コンピュータがクラッシュしてしまう恐れがあります。

コンピュータとの接続には、別売りの接続ケーブル (USB ケーブル、または FireWire800 ケーブル) が必要となります。FireWire800 ケーブルは、FireWire400 ケーブルとコネクタ形状が異なります。



USB

FireWire800

FireWire400 ケーブルを使用したい場合は、別途変換コネクタが必要となります。

5.1 Windows Me

ファイルシステムの詳細については、「6.1 Windows ファイルシステム」をご参照ください。

5.1.1 パーティションの設定

本製品がオペレーティングシステムによって認識されて使用可能になるためには、オペレーティングシステムが認識する形式でパーティションが作成され、フォーマットされていることが必要です。

すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

パーティションの設定は Windows 標準添付の FDISK で行います。

1) FDISK の起動

MS-DOS プロンプトを開きます。fdisk とタイプして [Enter] を押します。「512MB 以上のディスクがあります」には [Y] を押して、[Enter] を押します。

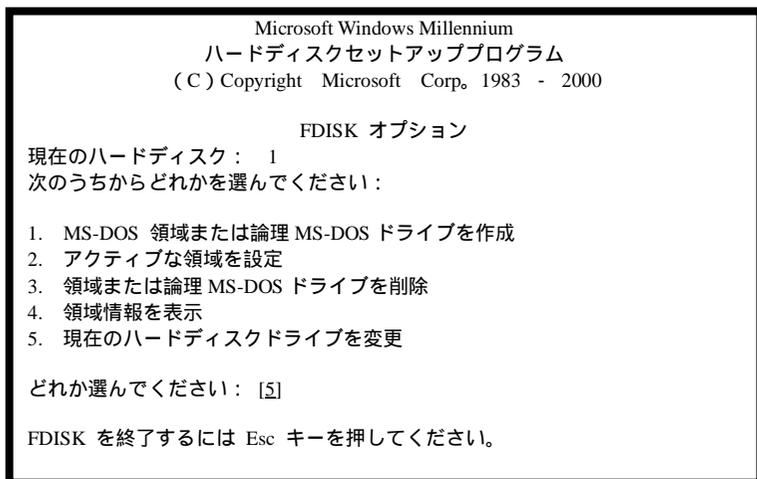
512MB 以上のディスクがあります。このバージョンの Windows では、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2GB 以上のドライブを 1 つのドライブとしてフォーマットできます。

重要: 大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、他のオペレーティングシステムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません (Windows 95 と Windows NT の特定のバージョン、以前のバージョンの Windows と MS-DOS を含む)。また、FAT32 ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正常に動作しません。このディスクで他のオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要はある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

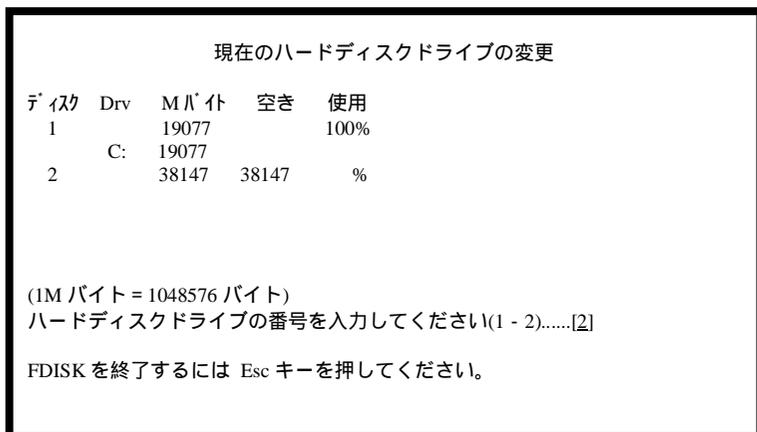
大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N).....? [Y]

2) ハードディスクの選択

FDISK のメインメニューが表示されます。「5.現在のハードディスクドライブを変更」を選択するために[5]を押して[Enter]を押します。

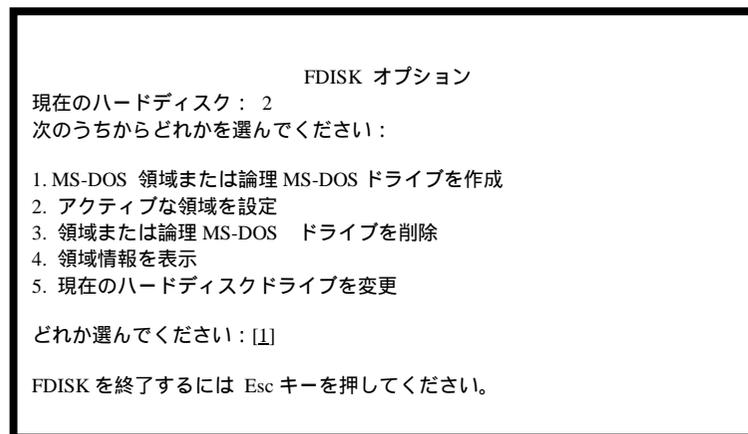


本製品に組み込んだハードディスクが2台目のディスクの場合は[2]を押して[Enter]を押してください。2台目以降のハードディスクドライブが複数台ある場合は、パーティションが設定されておらず(ハードディスクドライブの容量と[空き]の部分に同一の容量が表示されます)本製品に内蔵したハードディスクドライブと同じ容量が認識されているハードディスクドライブを確認し、その番号を選択してください。

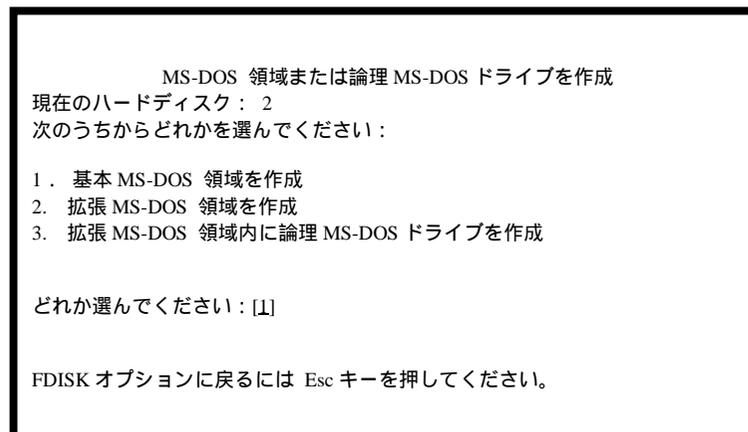
**3) パーティション(領域)の作成**

「1.基本 MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。ここで、パーティションの構成によって作業が異なります。一つだけ作る場合は4)を、2つ以上に区切るときは5)を参照

してください。

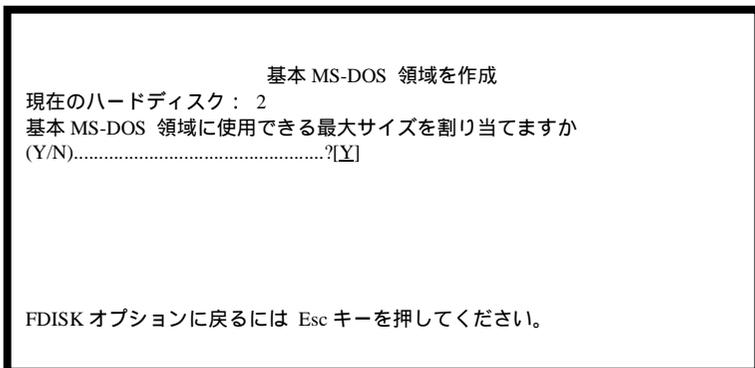
**4) 基本パーティションを一つだけ作る場合**

「1.基本 MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。



しばらくの間ドライブをチェックした後、「MS-DOS領域に使用できる最大サイズを割り当てますか?」と表示されたら、[Y]を押して、[Enter]を押します。

「基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名は変更または追加されました。」と表示されたら、最大サイズを割り当てる場合は[Y][Enter]の順に押して、[ESC]キーで FDISK オプション画面に戻ります。

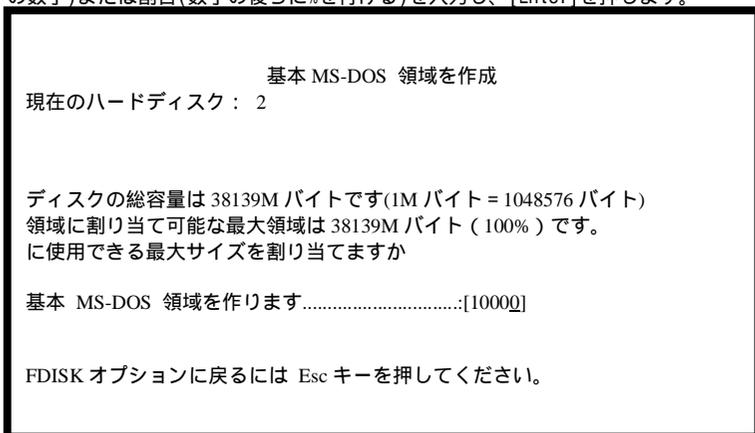


5) パーティションを複数設定する場合 (3) から続く)

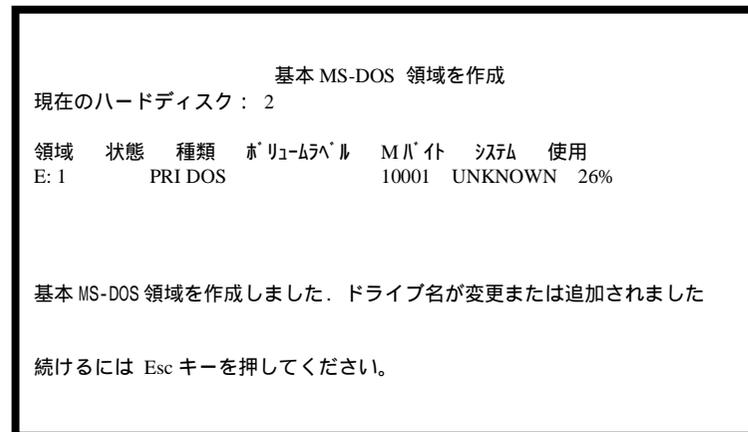
「1.基本 MS-DOS 領域を作成」を選択するために、[1]と[Enter]を押します。

基本パーティションの作成

しばらくドライブをチェックした後、「MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てますか?」と表示されたら、[N]を押します。ドライブの総容量が表示され、再度ドライブをチェックします。「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合 (%) で入力してください」と表示されたら、容量 (MB 単位の数字) または割合 (数字の後ろに % を付ける) を入力し、[Enter]を押します。

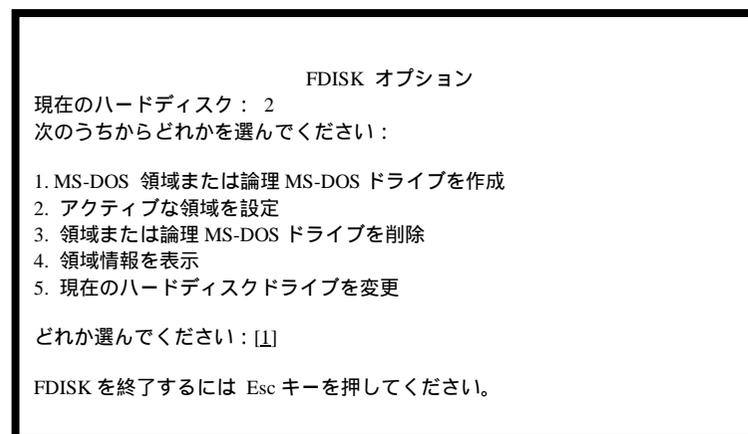


「基本 MS-DOS 領域を作成しました。ドライブ名が変更または追加されました。」というメッセージが表示されますので、[Esc]キーを押して FDISK オプションの画面まで戻ります。

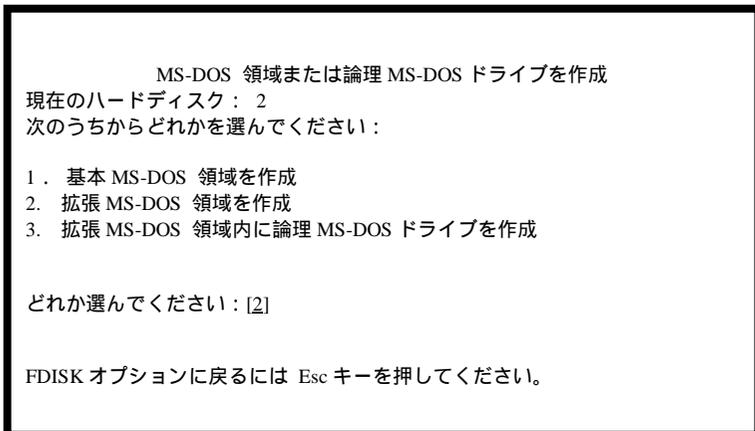


拡張パーティションの作成

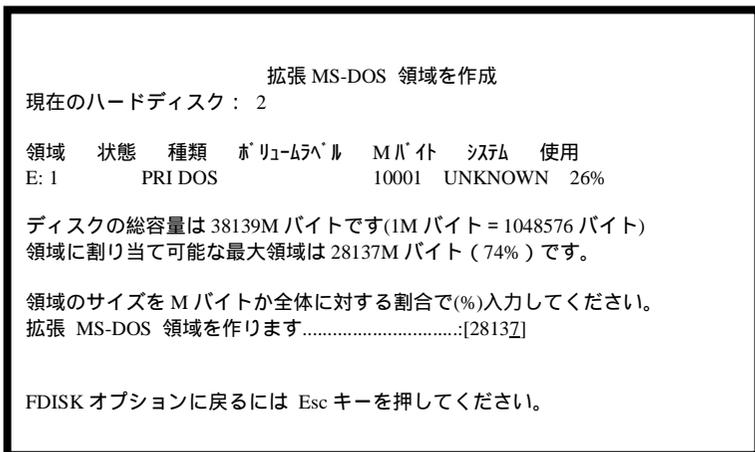
FDISK オプションの画面から、[1]を入力し[MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成]を選択し、[Enter]を押します



「次のうちどれかを選んでください:」という表示のあとに、選択肢が表示されますので、[2]を入力し「拡張 MS-DOS 領域を作成」を選択し、[Enter]を押します。



しばらくの間ドライブをチェックした後、ハードディスクドライブの総容量と領域に割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズを M バイトか全体に対する割合 (%) で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量 (MB 単位の数字) または割合 (数字の後ろに % を付ける) を入力し、[Enter] を押します。

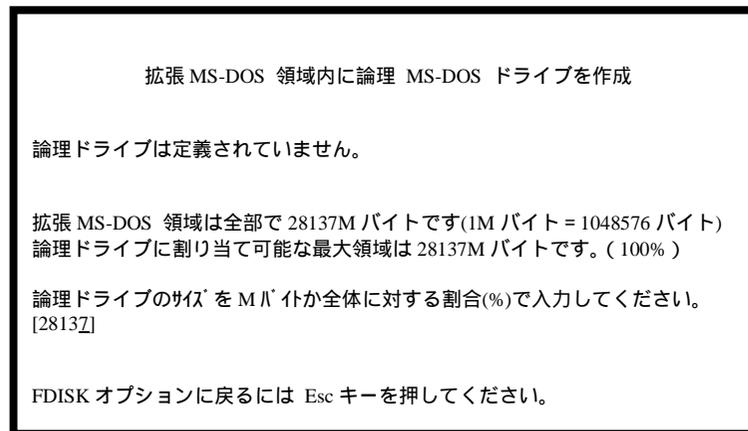


「拡張 MS-DOS 領域を作成しました。続けるには Esc キーを押してください。」というメッセージが表示されますので、[Esc] キーを押します。

論理ドライブの割り当て

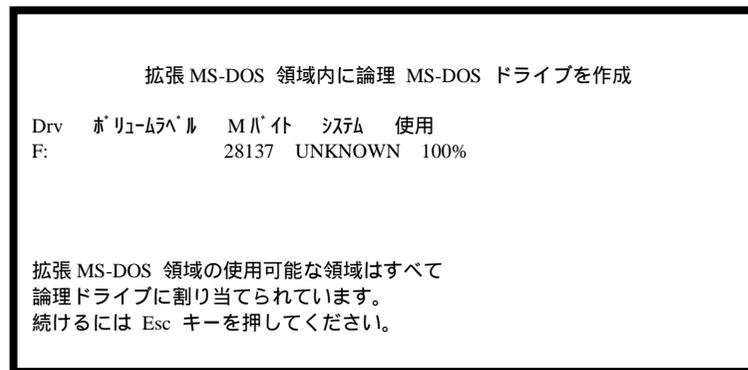
拡張 MS-DOS 領域を作成すると、「論理ドライブは定義されていません。」というメッセージが表示され、ドライブをチェックした後、論理 MS-DOS 領域の割り当て画面になります。拡張 MS-DOS 領域の容量と論理ドライブに割り当て可能な最大容量が表示されます。「領域のサイズを M バイトか全体に

対する割合 (%) で入力してください」というメッセージが表示されたら、任意の容量 (MB 単位の数字) または割合 (数字の後ろに % を付ける) を入力します。



拡張 MS-DOS 領域の空き容量すべてを割り当てるまで、くり返し論理 MS-DOS 領域の割り当て画面が表示されます。拡張 MS-DOS 領域の空き容量をすべて割り当てず、途中で終了する場合には Esc キーを押して FDISK オプション画面に戻ってください。

拡張 MS-DOS 領域のすべての容量に対して論理 MS-DOS 領域が設定されると、下図のメッセージが表示されますので、[Esc] キーを押して FDISK オプション画面に戻ってください。



6) FDISK の終了と再起動

FDISK オプションの画面で [Esc] キーを押して FDISK を終了します。ハードディスク領域の変更があった場合には、「変更を有効にするには、コンピュータを再起動してください。変更または作成したドライブは、すべて再起動後にフォーマットする必要があります。」というメッセージが表示されますので、確認し [Esc] キーを押します。設定したハードディスク上の領域をフォーマットする前に、正しい手順で本製品をパソコン本体から取り外し、Windows を再起動してください。

5.1.2 ドライブのフォーマットとマウント

再起動後、デスクトップ上の[マイコンピュータ]を開いてから、本製品をパソコンへ接続してください。本製品を接続すると[マイコンピュータ]内に領域設定されたドライブのアイコンが表示されます。ドライブのアイコンを右クリックし、[フォーマット]を選択してください。[フォーマット]のウィンドウが開いたら、「フォーマットの種類」の項目の「通常のフォーマット」をチェックし、[開始]ボタンを押します。フォーマットが問題なく終了すればドライブは使用可能です。

5.1.3 ドライブの取り外し

本製品を取り外す前に、タスクバー右端の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして表示されるドライブ一覧から本製品を選択します。確認のダイアログボックスが表示されたら、OKを押してダイアログを閉じてください。これで安全に取り外せるようになります。

5.2 Windows2000/XP

ファイルシステムの詳細については、「6.1 Windows ファイルシステム」をご参照ください。

5.2.1 ディスクへの署名

ディスクをシステムに最初に接続したときに、「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が起動するかもしれません。もし、ウィザードが起動された場合は、「次へ」ボタンをクリックしてください。



(図 5.2.1-1)

ディスク 2(システムによって異なります)をチェックし、「次へ」をクリックします。



(図 5.2.1-2)

「アップグレードするディスクの選択」では、チェックをしないで「次へ」をクリックします。



(図 5.2.1-3)

ウィザードが終了したら、「終了」をクリックしてダイアログを閉じます。

5.2.2 パーティションの設定

Windows に標準で添付されている「ディスクアドミニストレータ」で行います。

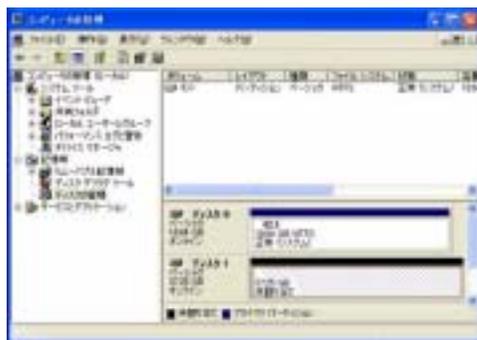
すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) ディスクアドミニストレータを起動

管理者または Administrators グループのメンバーとしてログオンし、スタートメニューから「プログラム」 「管理ツール」 「ディスクアドミニストレータ」を選択します。

2) ハードディスクの選択

本製品に搭載したディスクに該当するドライブが「未割り当て」として表示されます。



(図 5.2.2-2)

3) パーティション作成ウィザードの起動

未割り当ての領域を右クリックし、「パーティションの作成」をクリックします。パーティションの作成ウィザードで「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-3)

4) パーティションの種類を選択

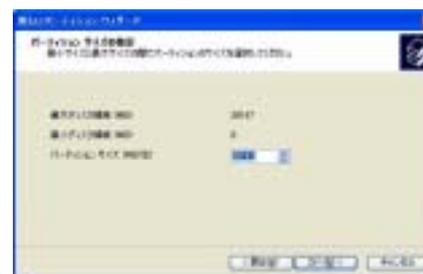
パーティションの種類（プライマリパーティション等）を選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-4)

5) パーティションのサイズを選択

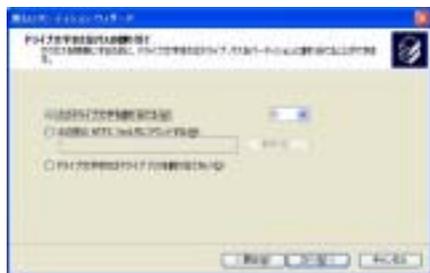
パーティションのサイズを選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.2-5)

6) ドライブ文字やパスの割り当て

ドライブ文字またはパスの割り当てで「次へ」をクリックします。

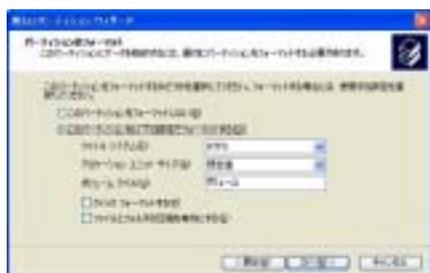


(図 5.2.2-6)

5.2.3 ドライブのフォーマットとマウント

1) パーティションのフォーマット

ファイルシステム等の項目を選択して「次へ」をクリックします。



(図 5.2.3-1)

2) 作業完了

パーティションの作成ウィザードの完了で設定した内容を確認して「完了」をクリックします。



(図 5.2.3-2)

5.2.4 ドライブの取り外し

本製品を取り外す前に、タスクバー右端の「ハードウェアの取り外し」アイコンをクリックして表示されるドライバー一覧から本製品を選択します。確認のダイアログボックスが表示されたら、OKを押してダイアログを閉じてください。これで安全に取り外せるようになります。

5.3 Mac OS 9.x

ファイルシステムの詳細については、「6.2 Mac OS 9.x ファイルシステム」をご参照ください。

5.3.1 ドライバソフトウェア

USB 接続で使用する場合、Mac OS 9.x では専用のドライバをインストールする必要があります。以下のサイトからダウンロードしてください。

サポートサイト : <http://www.amulet.co.jp/CitiDISK/>

こちらから「ダウンロード」ボタンを押すと、ダウンロードサイトへ飛びます。「CitiDISK Combo Mac OS 9.x ドライバ」をダウンロードして下さい。ダウンロードされたファイルは sit 形式になっています。stuffit 等のユーティリティを使って展開してください。展開されたディレクトリの中にインストーラがありますので、それを起動し、インストールを実行して下さい。

FireWire 接続で使用する場合、Mac OS 9.1 以降ではドライバのインストールは必要ありません。Mac OS 9 から Mac OS 9.04 までは、上記サイトより「CitiDISK FireWire ドライバ」をダウンロードし、インストールする必要があります。

5.3.2 パーティションの設定

パーティションの設定には、FireWire、USB 共に、Mac OS に標準添付の「ドライブ設定」は利用できません。サポートサイトより「Shining Drive Setup」をダウンロードし、それを利用してパーティションの分割を行ってください。

すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) Shining Drive Setup の起動

「Shining Drive Setup」をサポートサイトよりダウンロードします。ファイルは sit 形式になっていますので、stuffit 等のユーティリティを使って展開してください。その後、展開されたディレクトリの中の「Shining Drive Setup」を起動します。

2) ハードディスクの選択

List of drives というウィンドウが開き、マウントしているドライブが、Interface と Volume name の一覧表がでます。このとき、Interface が FireWire のドライブを選択し、ウィンドウの右下の「Initialize...」というボタンを押してください。



(図 5.3.2-2)

3) パーティションの作成

「Data on the following volumes will be destroyed」(初期化する場合は、以下のボリュームが消失されます)というメッセージが表示され、現在のパーティションが表示されます。初期化する場合は、「initialize」ボタンを押してください。さらに細かくパーティションの設定を分ける場合は、「Custom Setup...」ボタンを押してください。



(図 5.3.2-3)

4) パーティションのサイズの選択

「Custom Setup」では、一番上の「Drive」部分でパーティションの数を選択します。



(図 5.3.2-4)

5) ファイルシステムの種類の選択

分けたパーティションを一つずつ選択します。右側の「Volume Info」でボリュームのタイプと容量を選択します。通常は「Mac OS Extended(Mac OS 拡張)」が選ばれています。容量は数字(単位:メガバイト、ギガバイト、パーセンテージの中から一つを選択)で入力できます。全てのパーティションに対し、ボリューム情報が確定したら「OK」ボタンを押します。3)の画面に戻りますので、そこで「Initialize(初期化)」を押します。

5.3.3 ドライブのフォーマットとマウント

ドライブ設定で、フォーマットも自動的に行われ、ボリューム毎にマウントされます。

5.3.4 ドライブの取り外し

マウントされているハードディスクアイコンをゴミ箱に入れると、マウントが解除されます。その後、本製品を取り外してください。

5.4 Mac OS X

ファイルシステムの詳細については、「6.3 Mac OS X ファイルシステム」をご参照ください。

5.4.1 パーティションの設定

パーティションの設定は、Mac OS X に標準添付の「ディスクユーティリティ」で行います。

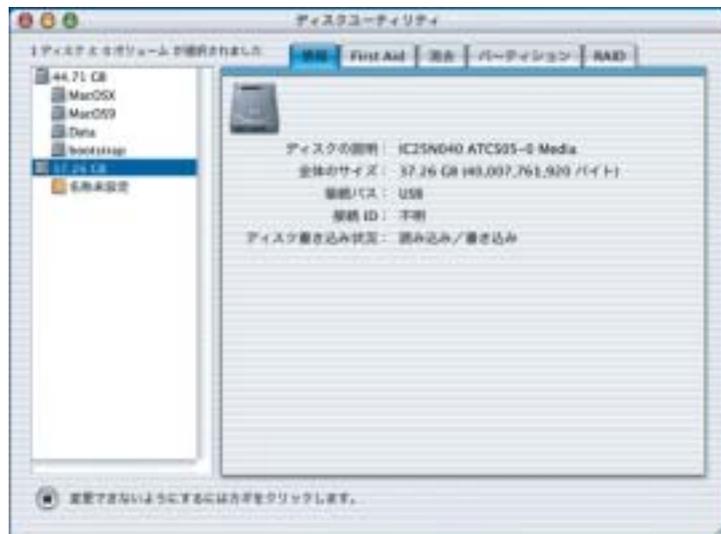
すでにパーティション作成ならびにフォーマットが済んでいるディスクにはこの作業は必要ありません。この作業を行うと、作業対象に指定したディスクの内容は全て消去されます。

1) ディスクユーティリティの起動

システムの入ったディスクから「アプリケーション」 「ユーティリティ」を選択し、そのフォルダの中にある「ディスクユーティリティ」を起動してください。

2) ハードディスクの選択

ハードディスクを搭載した本製品をインターフェース・ポートに挿入します。ウィンドウの左側に本製品に搭載されたドライブが示されますので、それをクリックします。右側のメニューの「情報」をクリックすると、「接続バス」がUSB または FireWire であることを確認してください。

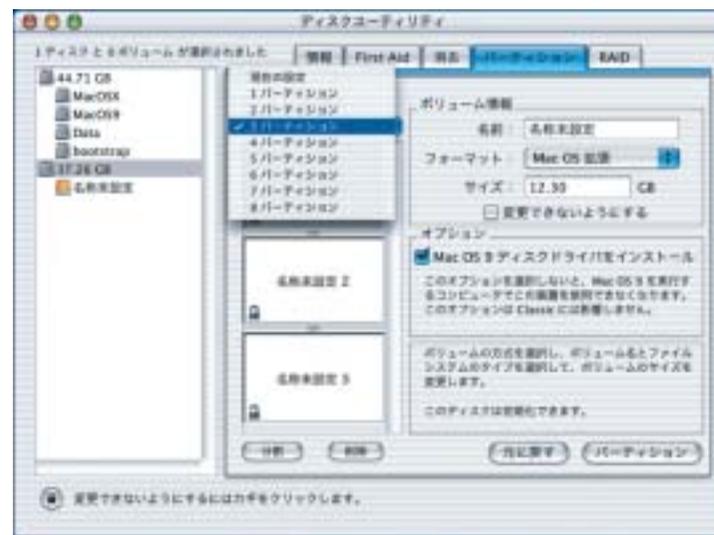


(図 5.4.1-2)

3) パーティションの作成

左側のメニューの「パーティション」を選択します。「ボリュームの方式」で、パーティションの数を選択します。現在の設定から変更するには、「現在の設定」メニューバーを押して、パーティショ

ンの数を変更します。



(図 5.4.1-3)

4) パーティションのサイズとファイルシステムの選択

それぞれのパーティションを選択し、右上部の「ボリューム情報」で、「名前」「フォーマット」「サイズ」を決定します。フォーマットを選ぶ時、UNIX ファイルシステムは、MacOS 環境ではマウントできないことに注意してください。

5.4.2 ドライブのフォーマットとマウント

全てのパーティションについて、「ボリューム情報」を定義し終えたら、右下の「パーティション」ボタンを押します。一度確認の画面がでてきます。そこで更に「パーティション」のボタンを押しますとドライブのフォーマットを開始します。フォーマットが完了するとドライブをマウントします。



(図 5.4.2-1)

5.4.3 ドライブの取り外し

マウントされているハードディスクアイコンをゴミ箱に入れると、マウントが解除されます。その後、本製品を取り外してください。

6 付録

6.1 Windows ファイルシステム

6.1.1 ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

- 16bit FAT
 - 単一のパーティションの最大領域は 2047MB(メガバイト)です。Windows95 以降全てのファイルシステムで利用できます。
- 32bit FAT (FAT32)
 - 単一のパーティションの最大領域は 2047GB(ギガバイト)です。WindowsNT を除く、Windows95 OSR2 以降の全てのファイルシステムで利用できます。
- NTFS
 - Windows NT File System の略。Windows NT, Windows 2000, および Windows XP で利用できます。
- NTFS5
 - NTFS の上位バージョンで、Windows 2000, および Windows XP で利用できます。Windows2000/XP で「NTFS」という場合には、通常こちらのフォーマットを指します。

6.1.2 パーティションのルール

Windows におけるパーティションには次の 3 種類があります。

- 基本パーティション(プライマリ・パーティション)
 - PC では、一つのハードディスクを複数のパーティション(領域・区画)に分割して使用できます。このパーティションを基本パーティションといい、最大 4 つの基本パーティションを作成できます。但し、拡張パーティションが存在する場合は最大 3 つまでしか作成できません。作成された基本パーティションを更に複数に分割することはできません。ハードディスクをシステム起動ディスクとして設定する場合、そのハードディスクは 1 つの基本パーティションがあり、アクティブ(起動可能)に設定されなければいけません。このパーティションをアクティブ・パーティションといい、これらの情報は、MBR(Master Boot Record)中のパーティションテーブルに格納されています。起動の必要のないハードディスクは、基本、拡張、論理パーティションの様々な組み合わせでパーティションを作成することができます。但し、Windows95, Windows 98 では、1 台のハードディスクに存在する基本パーティションの数が一つであることを前提としており、複数の基本パーティションがある場合には、アクティブ・パーティションしか、アクセスすることができません。
- 拡張パーティション
 - PC では、一つのハードディスクに最大 4 つまでの基本パーティションを設定できますが、それ以上のパーティションが必要な場合には、基本パーティションの一つを拡張パーティションとし、その中に複数の論理パーティションを作成することができます。拡張パーティションは、一つのハードディスクに一つしか設定できません。拡張パーティションは、構造的には基本パーティションと同じだが、使われかたが異なるため、基本パーティションと区別しています。
- 論理パーティション(ロジカル・パーティション)
 - 拡張パーティション中に作成されたパーティションを論理パーティションといいます。論理パーティションは、拡張パーティションの中をさらに小さな部分に分割して設定することが可能です。論理パーティションを定義した後は、OS はドライブ名をそれぞれの論理パーティションに割り当てますが、そのドライブを「論理ドライブ」と呼びます。

6.2 Mac OS 9.x ファイルシステム

6.2.1 ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

- HFS
標準パーティション。領域の大きさに 4 ギガバイトの制限があります。
- HFS+
拡張されたパーティション。領域の大きさは事実上制限がありません。
- File Exchange
Windows とコンパチブルなファイルフォーマット。

6.2.2 パーティションのルール

Mac OS では、ハードディスク 1 台につき最大 8 個までのパーティション作成が可能です。

6.3 Mac OS X ファイルシステム

6.3.1 ファイルシステムの種類

本製品では以下のフォーマットをサポートしています。

- HFS
標準パーティション、Mac OS 7.6 からサポートされているパーティションで、領域の大きさに 4 ギガバイトの制限があります。
- HFS+
拡張されたパーティション、Mac OS 8.1 以降からサポートされているパーティションで、領域の大きさは事実上制限がありません。
- UFS
UNIX ファイルシステムパーティション。4.3BSD と互換性を持つパーティションです。このファイルシステム上では Mac OS 環境は動作しません。

6.3.2 パーティションのルール

Mac OS では、1 台につき最大 8 個までの制限がありましたが、Mac OS X では、9 個以上のパーティションを作成することができます。

6.4 仕様

FireRACK 800 仕様

型番	AMU-WA6511FR12	
インターフェース	FireWire 800/IEEE1394b 2 ポート USB1.1/2.0 兼用 1 ポート	
転送速度 (理論値)	USB1.1	12Mbps
	USB2.0	480Mbps パースト転送速度最大 22MByte/s
	FireWire 800/IEEE1394b	800Mbps パースト転送速度最大 80MByte/s
サイズ	約 207mm(W) × 285mm(L) × 70mm(H)	
重量	約 2.6kg(ハードディスクドライブ含まず)	